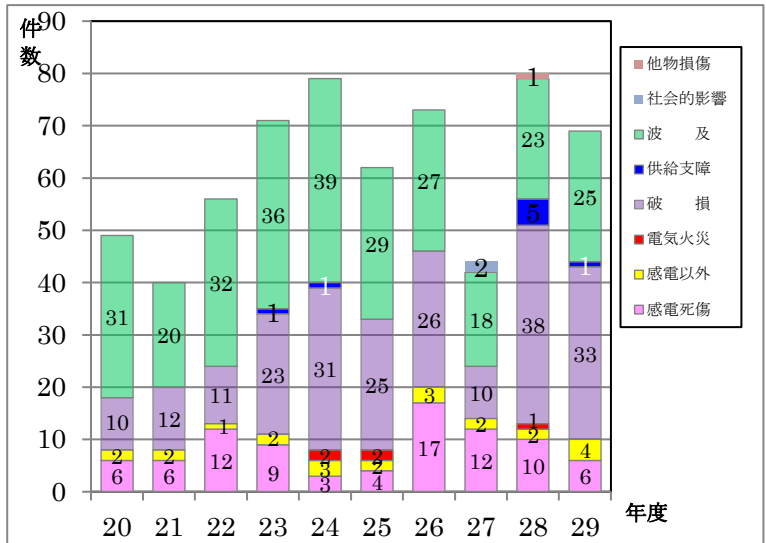


平成29年度九州管内における電気事故について【概要版】

【電気事故全体での分析】

- 平成29年度、九州管内の電気事故は69件発生（前年度比－11件）
- 感電死傷事故は6件発生
その内死亡事故は0件
- 破損事故は33件発生
太陽電池発電所の事故が増加
- 波及事故は25件発生

グラフ1. 管内の電気事故件数の推移 ※水力の「異常放流」除く。



【種類別での分析】

1. 感電死傷事故

- 6件(6名)発生（前年度比－4件）
公衆感電4件、作業者感電2件
※過去10年では8月が最多
- 配電線に係る公衆感電事故が3件発生

グラフ2. 管内感電死傷事故月別発生件数（過去10年の累計）

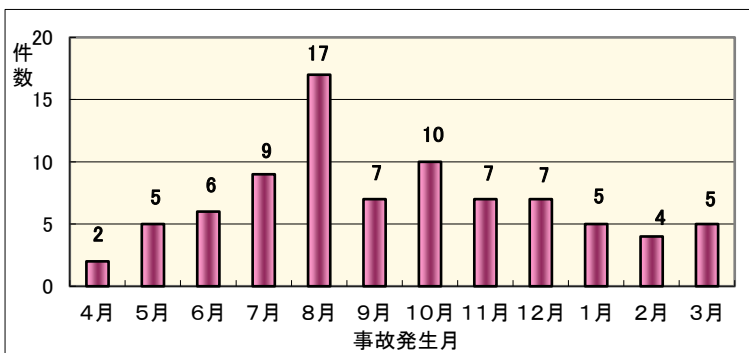


表1. 平成29年度管内電気事故の種類別件数

種類	区分	電気事業用電気工作物	自家用電気工作物	計
感電死傷		3 (2)	3 (8)	6 (10)
感電以外死傷		0 (1)	4 (1)	4 (2)
電気火災		0 (0)	0 (1)	0 (1)
他物損傷		0 (0)	0 (1)	0 (1)
破 損		2 (13)	31 (25)	33 (38)
供給支障		1 (5)	—	1 (5)
波 及		—	25 (23)	25 (23)
社会的影響		0 (0)	0 (0)	0 (0)
計		6 (21)	63 (59)	69 (80)

(注) () 内は前年度の件数

●事故例

<公衆>「被害者の過失」

雨漏り調査に伴う足場組立の際、誤って高圧充電部に接触し感電した。

<電気作業員>「被害者の過失」

高圧負荷開閉器のロック状態の点検において、手に持ったカメラを充電部に接近させ感電した。

<公衆>「被害者の過失」

新築工事の際、クレーンのワイヤーが高圧線と接触して工事業者が感電した。

<電気作業員>「作業方法不良」

充電部と停電部が混在した電気室で高圧ケーブルの絶縁抵抗測定中、誤って充電部に接触し感電した。

2. 感電以外の死傷事故

- 4件(4名)発生(前年度比+2件) ※過去10年間で最多

<電気作業員>「電気工作物の操作」

漏電ブレーカーを取替えようと分電盤に固定していた際、工具を充電部に接触しアークを発生させ負傷した。

<電気作業員>「電気工作物の操作」

断路器ロックピンを正常な位置に戻そうと充電状態のまま操作棒を取付けた際、断路器が開放されアークを発生させ負傷した。

3. 主要電気工作物の破損事故

- 33件発生（前年度比－5件）
- 発電設備以外は1件
 - 自家用電気工作物 1件（前年度比＋1件）
 - 電線路ケーブル破損
 - 電気事業用電気工作物 0件（前年度比－1件）
- 発電設備の破損事故は32件（前年度比－5件）
 - 自家用電気工作物 30件（前年度比＋5件）
 - 太陽電池発電所の逆変換装置破損が増加
 - 電気事業用電気工作物 2件（前年度比－10件）

太陽電池発電所	15件	（前年度 3件）
火力発電所	13件	（前年度 14件）
風力発電所	4件	（前年度 7件）
水力発電所	0件	（前年度 13件）
変電所	0件	（前年度 1件）
需要設備	1件	（前年度 0件）
「保守不完全」	8件	（前年度 10件）
「施工不完全」	4件	（前年度 3件）
「風雨」	4件	（前年度 3件）
「雷」	3件	（前年度 0件）
「自然劣化」	2件	（前年度 1件）
「製作不完全」	1件	（前年度 3件）
「化学腐しよく」	1件	（前年度 3件）
「塩・ちり・ガス」	1件	（前年度 0件）
「鳥獣接触」	1件	（前年度 0件）
「地震」	0件	（前年度 8件）
「調査中・不明」	8件	（前年度 7件）

4. 供給支障事故

- 1件発生（前年度比－4件）
- 自然現象（風雨）によるもの

5. 波及事故

- 25件発生（前年度比＋2件）
- 近年20から30件程度発生
 - 7月に6件、6月と10月にそれぞれ4件発生
 - ※過去10年では夏場に多い傾向
- 原因別では「雷」が14件と半数以上（56%）
- 前年度に比べ7件増加
- 次に「作業者の過失」が3件（12%）
- 機器別では「区分開閉器」が15件（60%）、
- 次に「短絡接地器具」が3件（12%）

グラフ3. 管内波及事故の月別発生件数（過去10年の累計）

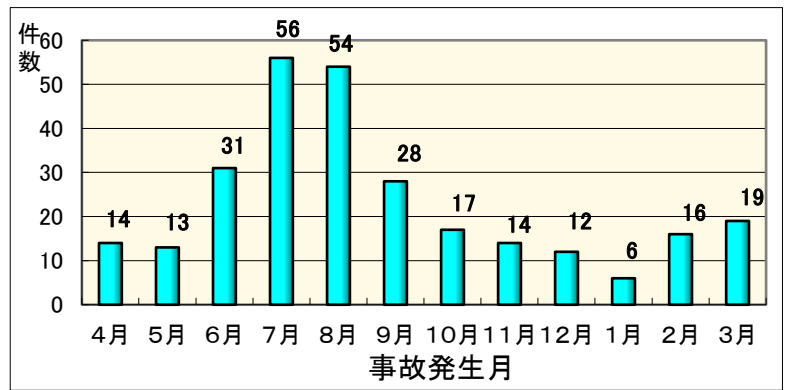
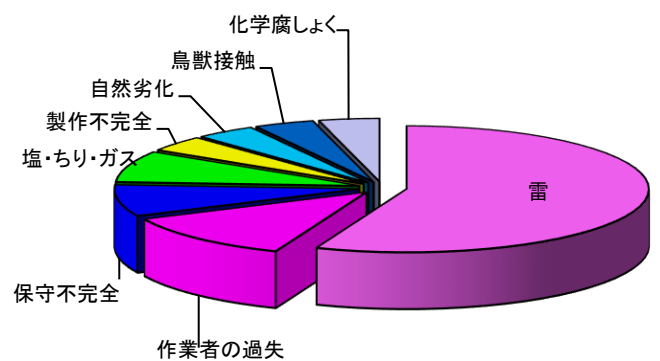


表2 平成29年度管内波及事故の電気工作物別発生状況

発生順位	電気工作物	件数	前年度の件数
1	区分開閉器	15 (56.0%)	14 (60.9%)
2	短絡接地器具	3 (12.0%)	1 (4.3%)
3	高圧引込ケーブル	2 (8.0%)	4 (17.4%)
3	避雷器	2 (8.0%)	0 (%)
5	遮断器・LBS	1 (4.0%)	2 (8.7%)
5	高圧絶縁電線	1 (4.0%)	0 (%)
5	常用予備切替盤	1 (4.0%)	0 (%)
-	断路器	0 (%)	1 (4.3%)
-	高圧コンデンサ	0 (%)	1 (4.3%)
	合計	25 (100%)	23 (100%)

グラフ4. 平成29年度管内波及事故の原因別発生状況



6. 電気火災、他物損傷、発電支障、ダム異常放流、社会的影響事故なし